

令和4年度ヒラメ日本海中西部・東シナ海系群の管理基準値等に関する研究機関会議  
議事要録

開催日時：令和4年11月22日（火）13:30～16:30

開催方法：Microsoft Teamsによるオンライン会議

参加機関数：17機関 計51名（有識者2名含む）

【会議概要】

水産研究・教育機構の資源評価担当者より、「令和4（2022）年度ヒラメ日本海中西部・東シナ海系群の資源評価」に基づく資源管理基準値等の案を説明し、議論を行った。下記のような意見がだされ、これらについて対応あるいは理解を共有した上で、提案内容について承認された。

【出された意見】

- ・今年度より新しく整備された1B系ルールに特有の、目標管理基準値を定めるための将来の加入の仮定の考え方について議論があったものの、現時点の見通しとしてより確からしい値をいれることが重要であるとの理解のもと、直近5年分の加入をベースとすることで合意された。なお、加入の仮定を変えた場合の結果について併記を希望する意見があったことから、補足資料に掲載して残すこととした。
- ・1B系管理規則の基準値である $\beta=0.7$ とした場合、管理開始初期に漁獲量を大きく引き下げることになるため、変動緩和措置（上限下限ルール）を適用した管理規則案を併せて提案するが、参画機関より、10年後に目標管理基準値を50%以上の確率で達成する $\beta=0.9$ として変動緩和措置を適用した場合についても示してほしいとの意見があり、提示することとした。
- ・再生産関係をもとにした1A系の管理規則によって頑健な目標管理基準値が得られないことから1B系の管理規則を適用することとするが、1B系の管理規則で重要となる加入量について推定精度向上に向けた検討が必要という意見が出された。
- ・本系群については親魚量を含めた資源評価全般の精度向上が不可欠であり、このことについて関係機関で協力して取り組むほか、信頼できる再生産関係が得られた時点で改めて1A系の管理規則の適用を検討すべきという意見が出され、その点について提案書に記載することとした。